

## 豊橋出身の作家が書いた、元祖「食育」本



『食道楽』 上・下 村井 弦齋／作 岩波書店 2005.7  
(請求記号 913.6 /ムラ/874187, 875948)

尾崎紅葉、幸田露伴、坪内逍遙、森鷗外といった文壇の代表四人の本の売れ行きを合わせても弦齋一人の数分の一にすぎなかったと言われる。明治末期の大流行作家村井弦齋。豊橋出身の弦齋が報知新聞に連載していた新聞小説が『食道楽』です。料理を紹介しつつも生き方や教育を説く啓蒙小説でもありました。その考え方は現代の「食育」という考え方に繋がっています。ずばり「食育」という項もあります。

## 食 について、こんなお問合せがありました

Q. 『東海道名所記』や井原西鶴『好色一代男』などに出てくる「芋川うどん」について調べています。きしめんや関東のひもかわうどんのルーツとされているそうですが…

A. 東海道の紀行文などに書かれた、うどんが名物の「いも川」「芋川」という土地は、その記述からみて現在の刈谷あたりの地名だと考えられています。『刈谷市史 第2巻』(刈谷市, 1994)を見ると、「ひもかわうどん発祥の地」として、江戸時代の様々な文献に紹介された記述を元に芋川的位置について考察されています。芋川的位置には諸説あり、刈谷市今岡、今川が挙げられています。『角川日本地名大辞典 23 愛知県』(角川書店, 1989)の「今川」の項では、「いも川が転訛して今川となった」とされています。

うどんについての資料として『そば・うどん百味百題』(柴田書店, 1991)を見ると、きしめんの関連で芋川うどんのことが書かれており、きしめんの製法として寛延3年刊の『料理山海郷』が紹介されています。また、『日本料理由来辞典 上』(同朋舎出版, 1990)、『蕎麦辞典 改訂新版』(東京堂出版, 2002)にも芋川うどんについての説明があります。

また、インターネットで「芋川うどん」をキーワードに検索すると、刈谷市今岡町に「旧「芋川」の地＝ひもかわうどん発祥地」の碑が建てられており、芋川の名物平うどんが東に伝わり「ひもかわうどん」として現代に残っていると説明されていることがわかりました。

- 開館時間 火曜日～金曜日 午前10時～午後8時  
(児童図書室・視覚障害者資料室は午前10時～午後6時)  
土曜日・日曜日・祝日 午前10時～午後6時
- 休館日 ・月曜日、毎月第2木曜日  
(その日が祝日(振替休日)に当たるときは開館、次の平日に休館)  
・年末年始(12月28日～1月4日)  
・館内整理のための休館(平成20年は2月28日～3月13日)
- 交通案内 地下鉄 鶴舞線又は桜通線「丸の内」下車 8番出口から徒歩5分  
市バス 幹名駅1系統・名駅14系統 「愛知県図書館」下車徒歩3分  
※有料駐車場はありますが、台数に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。  
(最初の30分までは無料。以後30分ごとに100円。最高1,000円まで)

あゆち 第5号

平成19年10月30日発行

編集・発行 愛知県図書館  
〒460-0001 名古屋市中区三の丸一丁目9-3  
電話 (052) 212-2323 (代表) / (052) 212-3200 (調査相談)  
URL <http://www.aichi-pref-library.jp>

館報「あゆち」は  
持ち歩きやすい  
A5サイズに  
なりました!